



Shimadai

2013.4 vol.16

島根大学広報誌

広報しまだい

【学長スペシャル対談】
ソフトバンク・テクノロジー株式会社
代表取締役社長 CEO
阿多親市さん

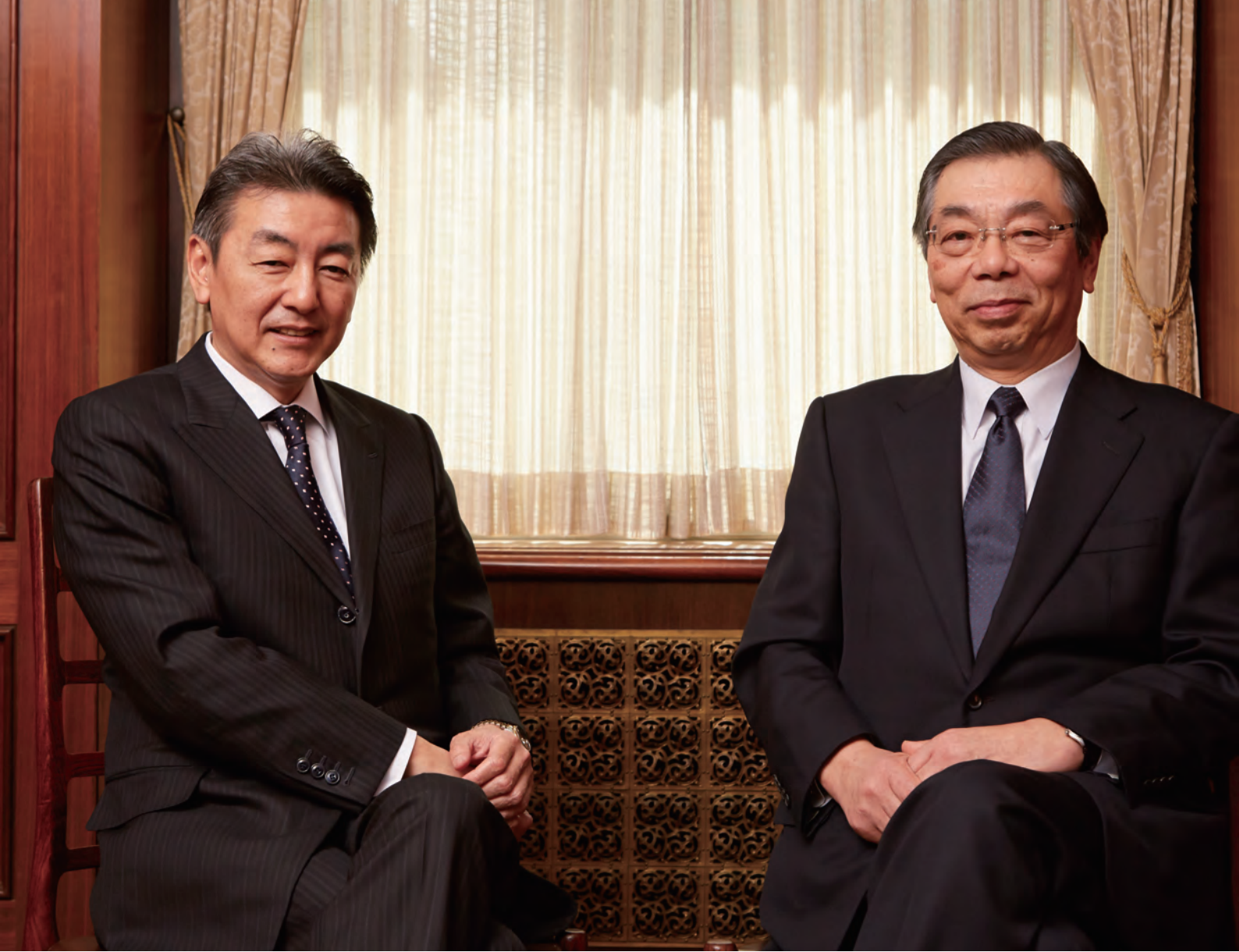
日本のここを、
「島根」に求めて。

島根大学医学部附属病院 再開発事業特集
地域医療と先進医療の
調和をめざして。

話題ゾクゾク、興味モリモリ。

島大

検索



学長
スペシャル対談

ソフトバンク・テクノロジー株式会社 代表取締役社長 CEO
島根大学法文学部法学科卒業

島根大学 学長

阿多親市さん×小林祥泰

A T A S H I N I C H I

K O B A Y A S H I S H O T A I

阿多親市さん(左)／1958年生まれ、兵庫県神戸市出身。82年、島根大学法文学部法学科卒業後、アイワ株式会社入社。87年、マイクロソフト株式会社(日本法人)に入社し、Excelなどのアプリケーションソフトウェアの普及に努める。2000年、同社社長に就任。03年、ソフトバンクBB株式会社・常務取締役に就任後は、ソフトバンク・グループ企業の役員を歴任し、通信事業を中心に情報システム・ICTサービス事業に従事。12年、ソフトバンク・テクノロジー社長に就任。

■病院再開発事業特集

地域医療と先進医療の調和をめざして。… 9

■島根大学の研究・地域貢献事業紹介

①法文学部 出口顯教授 …… 13

②医学部 田中賢一郎医科医員 …… 15

■しまだイトピックス …… 17

■幸運の耕運機プロジェクト …… 19

■公開講座・公開授業 …… 19

■サークル紹介 …… 20

天文部／松江よさこい連「國美輝」／
医学部 準硬式野球部

■島根スサノオマジック紹介・

島根大学支援基金寄附者一覧・プレゼント …… 22

日本の心を、「島根」に求めて。

ゲストは、デジタル化・IT化・グローバル化といった、現代の縮図のようなビジネス界の最前線で陣頭指揮をされている阿多親市さん。コミュニケーション論、IT活用論から人材育成論まで幅広い話題について、ビジネスの現場感覚あふれる対談となりました。

グローバル化の中、外国人とのコミュニケーションには、日本人としてのアイデンティティが必要となります。

学長 阿多さんは以前、かのビル・ゲイツさんもお仕事をされていたとか。外国の方とのコミュニケーションで、特に感じられることはありますか？

阿多 欧米に何度となく渡り、最近ではアジアへ行く機会

も多くなっていますが、ここで感じるのは、相手の国の文化を理解する姿勢が必要なのはもちろんとして、逆に我々も、日本人としてのアイデンティティを持つておかなければならないということです。キリス

ト教・イスラム教・儒教・ヒン

ズー教……。こうした宗教を下敷きにする文化を持つ彼らに対し、我々はどんなバックグラウンドを持つのか。日本はどうやってでき、どんな変遷をたどってきたのかという歴史観や、どんな心の拠りどころがあるのかなど、日本という国について語れ、自分が何者なのかをはっきりさせないと、真のコミュニケーションは図れないのではないかと思います。

学長 グローバルな時代になってきたからこそ、遠くまで見渡すためには逆に足下を知らないとお互いの立つ位置、いわば座標がわからなくなるといいますね。



2013.4 vol.16

Shimadai

島根大学広報誌
広報しまだい

■学長スペシャル対談

島根大学法文学部法学科卒業
ソフトバンク・テクノロジー株式会社
代表取締役社長 CEO

阿多親市さん……………1

■～神話・青銅器・たたら～

「古代出雲文化フォーラム」レポート……………5

日本文化の拠りどころでもある島根は 人間性を磨くには適した土地柄。

阿多 日本でも、島根とも縁の深い古事記や日本書紀のストーリーがある。日本中には八百万の神様がいて、旧暦の10月には、みんな出雲に集まってくるので、普通は「神無月」と呼ばれるが、出雲では「神在月」と呼ぶ、みたいなことが、実は日本の文化的背景になっているのではないのでしょうか。それと同時に思うのは、お互いの違いや差ばかりを見ても、コミュニケーションは進みません。共感できる部分を探さないと。「人間は皆同じ」なわけですから、例えば相手が海外出張など長旅であれば、本題に入る前に、まずその疲れを労うといった心づかいも大切だと思います。

学長 そうですね、さりげない心づかいが、人と人との結びつきを深めますからね。人をもてなす心をお茶の世界では「一期一会」と言います。松江は、松平不昧公のお茶文化が今でも息づき、京都・金沢と並ぶお茶の町ですから、ぜひこの「お茶文化」に触れて、人間性を豊かにしてほしいですね。

阿多 歴史面でも文化面でも、本家本元と言える島根で学生時代を過ごしながら、自分は何も知らなかったと。当時、もつと勉強しておけばよかったな…と強く思う次第です(笑)。

学長 ところで、最近フェイスブックやツイッターなどのSNSが盛んですが、お仕事とも関係の深いITでのコミュニケーションをどうお考えですか？

阿多 色んな解釈があると思いますが、個人的には、オフラインのコミュニケーションの隙間を埋めるのが、オンラインのコミュニケーションではないかと思っています。時間と距離を埋めてくれやすから。その形式も、1対1、1対多、あるいは1対不特定多数など使い分けができ、便利な反面、どう使うのが最適なのか、まだルールが定まっていないように感じます。

学長 ITの進化でコミュニケーション・スタイルが変わるのは当然としても、どのように変えるべきかは、今後考えていかなければなりませんね。



小林祥泰学長／1946年生まれ、出雲市出身。慶應義塾大学医学部卒業後、島根医科大学医学部教授、島根大学医学部附属病院長などを経て、2012年4月より島根大学長に就任。専門は神経内科学。

阿多 膨大な事例集である「ビッグデータ」活用のためには、テクニカルな問題に加え、どう
いう事象を捉えたいか、そのた
めには、どういった仮説を立て

て解析するかというクリエイ
ティブ力が重要。次なる新しい
バリューを生み出すために、幅
広い知見や深い洞察力などが
問われるんじゃないでしょうか。



タブレット端末を見ながら、これからのIT活用についてなごやかに談笑。

ITの活用により、学生と大学との、
より多面的な関係づくりを進めたい。

学長 その人間力養成の一環として、島根大では学生の早期の社会体験を推進中です。やりたいこと、進むべき道を早く見つけることができたいいのですが、ところで、人材を採用する側としては、大学にどんな人材育成を期待されますか？
阿多 非常に難しい注文になります。非常に難しい注文になります。ジェネラリストとしての視点を持ったスペシャリストの養成に期待したいところです。創造性を発揮するためには、基本的な人間力が必要ですが、一方で、一芸に秀でる部分がないと強みを作れません。先ほど話しました時間と距離を埋められるITによるeラーニングなどを活用し、広く・深く・自由に学べる体制ができるといいですね。
学長 今、多くの大学が「エンrollment・マネジメント」の考え方を導入しようとしています。在学生はもちろん、入学前から卒業後までを一貫して

サポートしていこうというもので、学生一人ひとりと学校との、より多面的で、より深い関係の構築が課題になってきました。こうした点においても、ITをうまく活用できないか。例えば、携帯電話のGPS機能を使えば、学生の出欠状況等を可視化しやすく、体調や精神的な悩みなども発見しやすいでしようし、大規模災害時の消息確認等も容易になります。
阿多 そうですね。個人情報との兼ね合いを考えなくてはいいませんが、学生たちの行動・活動をビッグデータとして捉えて、統計的にその行動スタイルなどを分析すれば、学生生活のクオリティ向上に役立つかもしれませんね。
学長 島根大としても、IT化を積極的に進めながら、学部を越えたコミュニケーションを活性化し、活力あるキャンパスにしていきたいと思えます。本日は、ありがとうございました。

レポ 古代出雲文化フォーラム

「神話・青銅器・たたら」

2013年3月3日(日) 東京・有楽町朝日ホール



「古代出雲文化フォーラム」を終えて
島根大学学長 小林 祥泰

「古代出雲文化フォーラム」に多くの皆さまの参加を頂き、盛況に終えることができたことを厚く御礼申し上げます。本学の研究成果とパワーを東京の真ん中で発信でき、嬉しく思います。フォーラム開催を思い立ってから1年余、東京同窓会そして県人会等の皆さまに熱心に宣伝して頂くとともに、東京新聞や雑誌「サライ」「歴史街道」などにも記事として取り上げて頂き、満員御礼という嬉しい悲鳴を上げることができました。本当にありがとうございました。



「古代出雲文化フォーラム」に寄せて

島根大学理事(企画・総務担当)／副学長 塩飽 邦憲

「古代出雲文化フォーラム」神話・青銅器・たたら」は、古事記編纂1300年を機会に島根大学の古代出雲文化に関する多様な学術研究成果を発信するために企画しました。

第1部を古代出雲文化の知についての語りとする、第2部は古代出雲文化を五感で受け止め、未来に向けての夢を語るセッションとなりました。参加者からは「松江で育ったのに、出雲文化を知らないことに気づいた」「このようなフォーラムを継続してほしい」と大変好意的な感想が寄せられ、共催をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。次回広島で開催の「たたらと日本文化」(仮題)にもご期待ください。



昨年の古事記編纂1300年で出雲への関心が高まる中、島根大学が東京で初めて主催する「古代出雲文化フォーラム」神話・青銅器・たたら」が3月3日、有楽町朝日ホールで開催されました。多くの来場者で埋め尽くされた会場では、どのセッションも大変盛況でした。

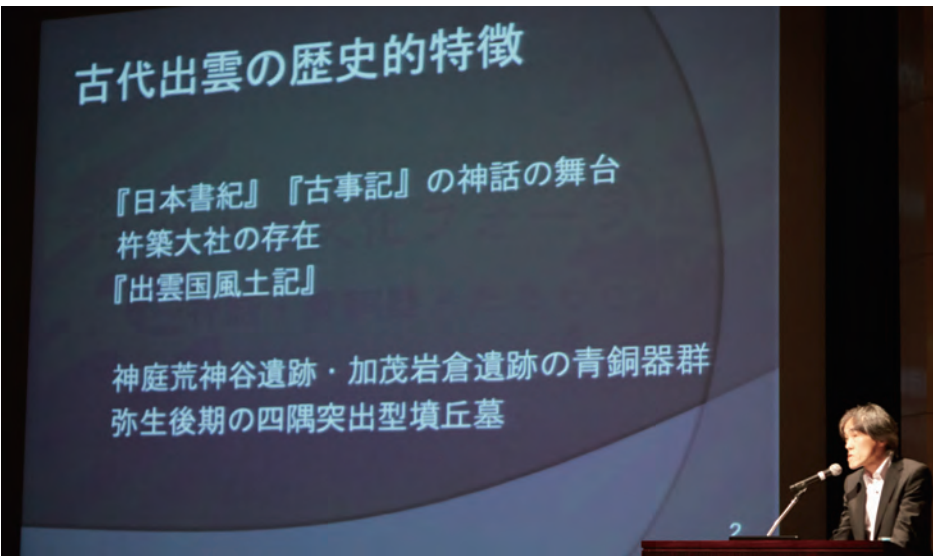


司会は、元TBSKアナウンサーの石原美和さん。

第一部 基調講演

「古代出雲の世界」

第一部の最初となる大日方教授の講演では、「古代出雲」のイメージが歴史の中でどのような変遷を辿ってきたかを、『古事記』や『日本書紀』、『出雲国風土記』とい



島根大学法文学部教授
大日方克己氏

た多くの人が聞き覚えのある文献とともに語られました。馴染み深い神話としての古代出雲だけでなく、律令国家の成立期における出雲のイメージが、時の政治や思想、社会の問題を色濃く反映し、時代とともに変化していく様子に、会場の皆さんも新鮮な驚きを感じられていたようでした。この後に続く講演の概略が掴めると同時に、古代出雲をはじめとした歴史の捉え方を改めて考えさせられるものとなりました。



1957年長野県生まれ。東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。博士(史学)。専門は日本古代史(奈良・平安時代)。

第一部 講演①

「出雲の青銅器文化」

島根県教育庁文化財専門官
松本 岩雄氏

弥生時代の代表的な青銅器、銅剣と銅鐸の大量の出土により、辺境と見られていた出雲の重要性が突如クローズアップされ始めました。そんな歴史ロマンあふれる切り口から、古代以来の出雲の独自性、そして弥生時代中後期の社会的変化が垣間見られる講演となりました。



1952年島根県生まれ。國學院大學文学部史学科卒業。専門は日本考古学(弥生・古墳時代)。

第一部 講演②

「出雲の四隅突出型墳丘墓」

島根大学ミュージアム准教授
會下 和宏氏

山陰など一部の日本海沿岸部と江の川中上流域にしか見られない「四隅突出型墳丘墓」の謎を、朝鮮半島から北陸にまたがる交流から考察。会場でも日本海を舞台とした壮大な古代世界を思い浮かべ、想像力が刺激された講演となりました。



1969年島根県生まれ。茨城大学文学部人文学科卒業。専門は日本考古学、博物館学。

第一部講演③-1

「古代出雲の鉄文化」

島根県立古代出雲歴史博物館
専門学芸員

角田 徳幸氏

『出雲国風土記』にも記述がある出雲の製鉄について、近年の発掘調査により明らかになった製鉄遺跡の様相から具体的に解説。これまで不明な点が多かった古代出雲の鉄文化を見直す端緒になる講演でした。



1962年広島県生まれ。島根大学文学専攻科修了。専門は日本考古学。



第一部講演③-2

「現代に生きるたたらと日本刀の科学」

和鋼博物館館長 八十 致雄氏

製鉄の過程の化学式を用いるなど、独自の視点で出雲におけるたたら製鉄を解説。現代科学にも通じる日本ならではの技術と日本刀の素晴らしさを感じることができました。



1945年兵庫県生まれ。京都大学卒業。島根大学大学院総合理工学研究科博士後期課程修了。専門はたたら、日本刀、鉄鋼材料。



鼎談 出雲神話のロマン
日本文化のルーツ、古代出雲を語る



福島 敦子 さん
キャスター&エッセイスト



佐野 史郎 さん
俳優



小林 祥泰 学長

第二部のカルチャー・セッションでは、キャスターでエッセイストの福島敦子さん、俳優の佐野史郎さん、そして小林祥泰学長の3人による軽快でにぎやかなトークが会場を沸かせました。

出雲神話バラード

古代の声を伝える
クラリネットと
弦楽四重奏

教育学部河添達也教授が遺跡を巡り作曲した『「古代の声」』出雲のコスモロジー(2013)をNHK交響楽団員が演奏。ロマンあふれる音色が会場を包みみました。





小林学長の「日本文化のルーツは、この古代出雲文化から始まったのではないかと思います。誇りを持つアイデンティティとして、日本人の自信を取り戻す良いきっかけになるんじゃないか」という言葉に対して、佐野さんからは「島根出身の自分が出雲神話を知らないのはまずい」ということで、古代出雲に興味を持つきっかけや、日本各地

を旅したときに感じた地域を越えた日本文化のつながりについて語られました。ワインアドバイザーでもある福島さんは、好きなお酒から古事記の大国主命のエピソード、お酒の神様である少彦名神、そして出雲の神在月に触れ、漢方専門医である小林学長のお話も交えて、連続と伝承される文化、祭祀、医学など幅広い観点から出雲

を見つめる熱いトークが繰り広げられました。

そして中でも3人が多大な関心を寄せたのが、出雲大社の祭神大国主命。話題は徐々に国譲りの話へ。佐野さんは「相反するものが混ざり合うとすごいものになる。何か興味が尽きない」と話し、物事の捉え方の大切さを改めて実感されたようでした。「矛盾を一つにし、争いをなくす譲り合いの精神。この日本の原点の考え方を、平和のためにもっと広めたい」という小林学長のまとめの言葉に、会場からは大きな拍手が起りました。

終わってみればあっという間の30分間。終始なごやかな中にも、現代や未来に対する鋭い提言を含んだ聞きごたえのある鼎談となりました。

来賓インタビュー



山本 則文氏

たくさんの方に来ていただいて大成功だったと思います。2回目、3回目と続くことを期待しています。



間宮 馨氏

非常にわかりやすく、皆さん満足されたのではないでしょう。10年続けてブランドにしてほしいですね。

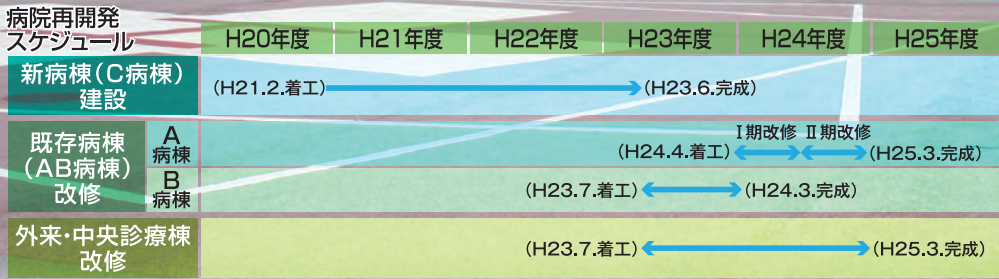
次回開催予告

「たたらと日本文化」(仮題)

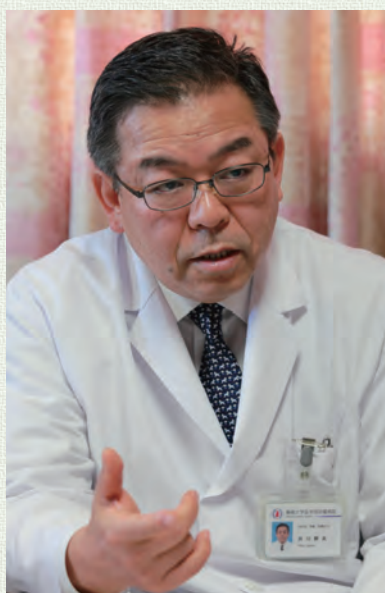
2014年3月9日(日)

広島国際会議場「ヒマワリ」にて

地域医療と先進医療の 調和をめざして。



島根大学医学部附属病院が、5年にわたる再開発事業を終えました。病院再開発の足取りや今後のビジョンについて、井川幹夫病院長にお話を伺いました。



島根大学医学部附属病院 井川幹夫病院長

島根大学医学部附属病院では平成20年度より新病棟の建設や各種施設の整備などを行い、このたび無事に再開発を終えることができました。

一昨年6月にオープンした新病棟により、救急医療および急性期医療の充実などをはじめ、快適な療養環境の提供が可能となり、さらに大規模災害時にも診療が継続できる体制となりました。

これからも、国際的視点を持つ優れた地域医療人の養成、医師等のキャリア形成支援、救急医療体制の拡充、災害医療への対応など、島根県の地域医療に貢献することを目標として、病院運営を行います。

今後も島根県の医療の中核として高度医療および臨床研究を推進するとともに、より安全、安心かつ質の高い医療提供体制を構築いたしますので、ご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

進化
ポイント
1

手術支援ロボット「ダヴィンチ」の導入による、先進的医療の提供

「ダ・ヴィンチ」とは、体腔鏡下3次元画像で遠隔操作手術を行うもので、ロボットアームの関節が人の動きを超えた可動域を持ち、精緻な動作が可能な手術支援ロボットです。これまで不可能とされていた角度からの視野の確保や、細密な鉗子の動きが可能になり、患者さんと医師の双方に大きなメリットがあります。島根県内では、島根大学医学部附属病院（以下、本院）が唯一の導入施設となります。



の利点は、(1)傷口が小さい、

(2)術中の出血量が少ない、

(3)術後の回復が早い、など

があります。すなわち患者さんへの負担が少なく、早期の社会復帰が可能となります。

現在は「ダ・ヴィンチ」を使って週1回のペースで前立腺全摘除術を行っています。患者さんの術後経過はきわめて良好です。今後は膀胱全摘除術などへの応用や、婦人科（子宮疾患）・外科（胃癌・大腸癌・肺癌）など他領域の手術への適応拡大も視野に入れています。

また、「ダ・ヴィンチ」でのロボット手術を行うにあたっては、ライセンスが必要となります。

本院では泌尿器科の椎名教授、安本准教授を中心に現在4名の医師が手術にあ

たっていますが、今後は若い医師も積極的にライセンスを取得し、医師全体の技術力の向上を図っていきます。

本院は島根県の都道府県が

ん診療連携拠点病院として、

各種がん治療を組み合わせた

集学的治療を行っています。

この度の再開発に伴い、新病棟の8階に「腫瘍センター病棟」を設けました。

化学療法を受けている患者さんは、白血球数が減少し免疫力が低下するため、クリーンな環境が必要です。そのため、腫瘍センター病棟に空気清浄度がクラス1000の個室、クラス10000の個室を設置しました。特にクラス10000の病室エリアでは、廊下や食堂も含めてエリア全体が同じ空気清浄度で管理されている

また、「ダ・ヴィンチ」でのロボット手術を行うにあたっては、ライセンスが必要となります。

本院では泌尿器科の椎名教授、安本准教授を中心に現在4名の医師が手術にあ

たっていますが、今後は若い医師も積極的にライセンスを取得し、医師全体の技術力の向上を図っていきます。

本院は島根県の都道府県が

ん診療連携拠点病院として、

各種がん治療を組み合わせた

集学的治療を行っています。

この度の再開発に伴い、新病棟の8階に「腫瘍センター病棟」を設けました。

化学療法を受けている患者さんは、白血球数が減少し免疫力が低下するため、クリーンな環境が必要です。そのため、腫瘍センター病棟に空気清浄度がクラス1000の個室、クラス10000の個室を設置しました。特にクラス10000の病室エリアでは、廊下や食堂も含めてエリア全体が同じ空気清浄度で管理されている

また、「ダ・ヴィンチ」でのロボット手術を行うにあたっては、ライセンスが必要となります。

本院では泌尿器科の椎名教授、安本准教授を中心に現在4名の医師が手術にあ

たっていますが、今後は若い医師も積極的にライセンスを取得し、医師全体の技術力の向上を図っていきます。

進化
ポイント
2

がん医療と急性期医療の充実など病院機能を強化

ため、患者さんの行動範囲も広がり入院生活のQOLが向上します。

さらに、国立大学病院では2番目に設けられた「緩和ケア病棟」では、癌治療の初期から主に症状緩和を必要とする段階まで、患者さんおよびご家族に静かで快適な療養環境を提供しています。

また、急性期医療の要となる「救命救急センター」を設けました。増床したICU（集中治療室）病床14床のうちの4床と、HCU（ハイケアユニット）の16床を合わせた20床を救命救急センター病床として新設。従来の救急医療体制と



は異なり、重症度・傷病の種類によらず全ての救急患者を診療する「ER型救急体制」を整え、県民の皆様が安心して

進化
ポイント
3

充実の設備・施設計画で、 災害時にも十分対応

本院は大規模災害に備えて、敷地全体を活用した対応を考えています。

■新病棟の耐震化

新病棟は、大地震においても機能を維持するため、建物全体を免震化しています。また、地下50mの岩盤まで直径1.5mの鉄筋コンクリート杭を打ち込み、基礎固めをしているほか、液状化対策として、地下23mまで砕石による地盤改良も施しています。

■災害による断水時にも

水洗トイレ等使用可能に

地下水汲み上げ用ポンプを設置。非常電源で稼働可能で、最大43万ℓ/日使用可能です。災害時には透析治療などにも使用できます（水質検査

きる医療環境を提供すると同時に、優れた救急医と総合診療医の育成をめざします。

合格)。また、飲料水確保のため、平成25年度末までに受水槽250mを増設予定です。

■災害対応型立体駐車場

災害時の大型テントとして、3000名以上避難できます。多数の患者のトリアーჯや応急手当のほか、強毒インフルエンザ等に対応するためドライブスルー方式の外来診療も可能となりました。



立体駐車場

■非常電源の確保

災害時の備蓄重油20kℓタンク3基で3日以上の自家発電が可能です。またC病棟屋上の発電機は300kWで8時間

進化
ポイント
4

地域医療に貢献できる 優れた医療人の育成

大学病院の機能として必要不可欠なのが「教育・研究環境の充実」です。

本院では優れた地域医療人を育成するために、教育関連スペースを拡充しました。たとえば、シミュレーターを使った研修のできる「内視鏡手術トレーニングセンター」や、医療技術の向上を目的とした「クリニカルスキルアップセンター」などを教育エリアとして一つにまとめ、効率的な教育・研修環境を整備しました。

また、他県の大学病院と連携して研究・臨床能力の高い医師を養成するとともに、将来地域においてリーダーシップを発揮できる総合診療医の

の送電が可能のほか、非常用自家発電機をこれまでの2台に加え、平成25年度にもう1台増設予定です。

育成をめざします。

さらには「しまね地域医療支援センター」が「昨年スタート。こちらは島根県をはじめ本学、医療機関、医師会、行政などが連携し、医師確保の取り組みや地域医療をめざす若手医師等の育成を支援するもので、平成25年7月に病院敷地内に同センターの拠点となる建物が完成します。



初期、後期研修医達

進化
ポイント
5

患者サービスの向上で、 療養環境をさらに改善

患者サービスの向上として、まず第一にあげられるのが「病室」です。これまでの多床室は主に6床でしたが、これを4床として療養環境を改善しました。また、患者さんのニーズに

応えて個室を増やしました。

さらには病室のテレビを利用したインターネット環境を整えるとともに、ベッドサイドに情報コンセントを配置し、患者さんが自分の

パソコンでインターネットを利用できるようにしました。その他にも全室にパーソナルタイプの冷蔵庫や大型ワイドロープ、ソファベッドの導入など、良質なアメニティを提供。患者さんご本人はもちろん、ご家族も快適にお過ごしただけです。

また、外来患者さんの待合室をゆつたりと広く確保したほか、コンビニエンスストアも充実し、新たにエスカレーターも新設し、患者さんが過ごしやすい環境づくりに取り組みました。



エスカレーター



病室(個室)



外来患者待合室



コンビニエンスストア

進化
ポイント
6

ゆつくり相談できる 入退院センターを設置

入退院の手続きを、カウンターでゆつくり座って行える「入退院センター」を新たに設置しました。入退院に関する事務手続きだけでなく、患者さんからの疑問にもお答えするほか、入院時の注意事項などについて詳しくご説明させていただきます。入院への不安を

解消します。また、病院にとつても、患者さんの既往症などの情報を事前に得ておくことができます。これまでは入院時に各病棟の看護師が聞き取りを行っていましたが、入退院センターで得た情報を病棟で共有するなど、看護師が看護業務に集中できるようにしました。また、

新たに導入した入退院管理システムの運用により患者さんのスムーズな受入、病床の管理・調整など、業務の効率化もはかっています。



入退院センター

このように、本院は病院再開発の完了により大学病院としての使命を果たすことができる体制を整えました。これからも先進的な医療の提供、臨床研究の推進、地域医療人の養成などで地域に貢献してまいります。

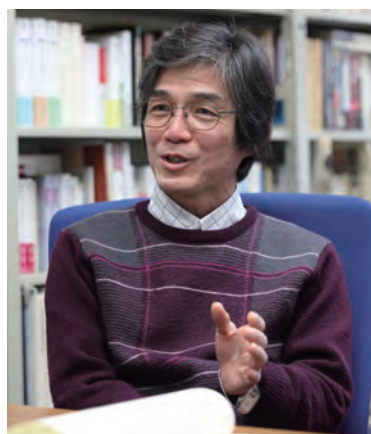


ムからの国際養子、長女は実子。

普通という 観念の見直しを迫る 「国際養子縁組」という選択

日本ではほとんど見聞きすることがない「国際養子縁組」。私たちには想像しにくい、その親子関係や家族のあり方について、北欧での事例をもとに出口教授に語っていただきました。

国際養子をもらったカップルの奥さんが「夫も実は養子だから、この家族の中で生物学的な親に育てられたのは私だけ。私の方がマイノリティ」だと話してくれました。家族がいかに多様化しているかを物語るエピソードです。



法文学部 教授 出口 顕

あきら

不妊治療の代替案、 国際養子縁組という選択

近年、日本では女性の社会進出に伴い、結婚年齢の上昇と高齢出産の増加の傾向が見られ、不妊治療や体外受精などへの関心が高まっています。現在、国際養子縁組を研究している出口教授ですが、最初はイギリスの事例をもとに、不妊治療、体外受精、代理出産が家族をどう変えていくかを調べていたと言います。

「北欧に知り合いの研究者がいて、北欧、特にスウェーデンでは不妊治療の代替策として国際養子縁組が行われているというのを知り、興味を持ちました」(出口教授)

朝鮮戦争による孤児を救おうという人道主義的な見地から始まり、40年近い歴史を持つ北欧での国際養子縁組への取り組みですが「北欧での国際養子縁組の場合、親が白人、子

北欧の国際養子縁組から、 新しい家族の形が見えてくる

スウェーデンでは国際養子に出生国の文化や社会にも理解と誇りを持たせようという

「ダブルアイデンティティ」という考え方があります。養子の出生国の祝日を一緒に祝うな

人口10万人に対する国際養子縁組の割合
北欧の国が上位を占める (%)

| 国 | 2006 | 2007 |
|---------|------|------|
| ノルウェー | 9.6 | 9.1 |
| スウェーデン | 9.7 | 8.8 |
| デンマーク | 8.3 | 7.9 |
| 合衆国 | 6.8 | 6.4 |
| オーストラリア | 2.1 | 2.0 |
| イギリス | 0.6 | 0.6 |

どもがアジア系やアフリカ系ということが多く、親の実子でないことは一目瞭然。そういうことは気にならないのか、あるいは偏見や差別はないのか。日本人にはなかなか理解しにくい感覚です」(出口教授)
決まった年齢までしか不妊治療を受けられないという北欧の事情も、国際養子縁組の定着に関係しているようです。



はじめから実子を望まず、中国(長女)と韓国(長男)から養子をもたらした夫婦。

国際養子の出生国である韓国のアートを飾って、ダブルアイデンティティを育成。



国際養子同士の夫婦と一緒に。夫は韓国生まれ、妻はエクアドル生まれ。夫婦の長男はベトナム



ちょっと気になるキーワード

出口教授のもう一つの研究テーマである、20世紀を代表するフランスの文化人類学者クロード・レヴィ・ストロース。彼の理論は「構造主義」と呼ばれ、20世紀後半に流行しましたが、よく理解されないまま忘れられています。しかし丹念にその著作を読むと、現代社会の諸問題を考える上でも示唆に富んでおり、出口教授はその思想の再評価に取り組んでいます。



出口教授による、レヴィ=ストロースに関する著書。現在はレヴィ=ストロースの代表的著作である『野生の思考』についての本を準備中です。

フランスの文化人類学者「クロード・レヴィ=ストロース」とは？

ど、出生国の文化について情報が得られる可能性を排除しないようにしておくことが大切だと考えているのです。その一方で、スウェーデンで暮らす多くの養子は、自分たちを「完全なスウェーデン人」と考えています。「養子にとって本当の親とは、生物学的な親ではなく、育ててくれた親なのです。このあたりは、血のつながりに「こだわわる日本人と大きく異なります」と出口教授。国際養子縁組における問題

は、出口先生のもう一つの研究テーマである、フランスの文化人類学者クロード・レヴィ=ストロースの構造主義にもつながるところがあります。「構造主義では、普通という観念を当然視しない考え方があります。さまざまな家族の形態に対して、異様だと決めつけずに受け入れる。そういう意味では、日本もまだ他者を排除する社会なのかもしれません」。出口教授の研究は、つきるところをしりません。



オステオグリシンの 研究を通して、高齢者の 健康維持に貢献したい

神戸大学との共同研究により、骨研究領域で最も大きな学会である米国骨代謝学会から若手研究奨励賞を授与された田中先生。その研究内容である、筋から分泌され骨形成を促進するホルモン様物質、オステオグリシンについて伺いました。

私の専門である内分泌代謝領域では近年、視床下部や甲状腺のような古典的な内分泌臓器だけでなく、様々な組織からもホルモンが分泌されていることが証明されてきています。今後も研究を発展させ、地域貢献に活かしたいです。



医学部 内分泌代謝内科・医科医員

たなか けんいちろう
田中賢一郎

研究のフロー

基礎研究における筋組織による骨代謝の制御因子の解明

臨床における筋肉量低下、骨量低下における予測因子あるいは治療標的として有用であるか否かの検討

サルコペニア(加齢による筋量減少)やロコモティブシンドローム(運動器症候群)の治療、予防への臨床応用

元気で明るい自立した高齢者

筋肉から分泌されるホルモン様物質が 骨を強くする可能性を発見

世界においてトップクラスの長寿国・日本。中でも島根県は65歳以上の高齢者人口の割合が全国第二位の29.1%(2011年10月現在)で、本格的な高齢社会を迎えています。今回お話を伺った田中先生の研究は、高齢者に多く見られる、骨や関節、筋肉などの運動器の障害により要介護となるリスクの高い状態になる「ロコモティブシンドローム」の病態解明や予防法に結びつく可能性があります。

「今回、筋組織を構成する筋芽細胞からオステオグリシンというコラーゲン合成に関わるタンパクが分泌され、骨形成的に作用することが発見されました。これまで骨粗鬆症の予防には、カルシウムやビタミン

Dを多く含む食品の摂取のみならず、筋量維持が重要とされてきましたが、この筋量維持が重要である理由の一つに、オステオグリシンが関わっているかもしれない。筋量低下と骨量低下を結ぶ重要な因子として注目されるオステオグリシン。「例えば、オステオグリシンの投与により、体力が落ちて筋力ができない高齢者の骨を強くできる可能性もあります」(田中先生)

この研究結果については、2012年4月に名古屋で開催された日本内分泌学会学術総会と、同年10月にアメリカ・ミネアポリスで開催された米国骨代謝学会学術集会において発表し、若手研究奨励賞を受賞しました。

研究のさらなる深化で、 島根から世界へ情報を発信！

もともと、神戸大学医学部にある骨代謝内分泌研究グループへの国内留学がきっかけで、今回の研究に取り組んだ田中先生。その研究結果を、超高齢化地域である島根県か

ら世界へ向けて発信されたことは非常に重要です。

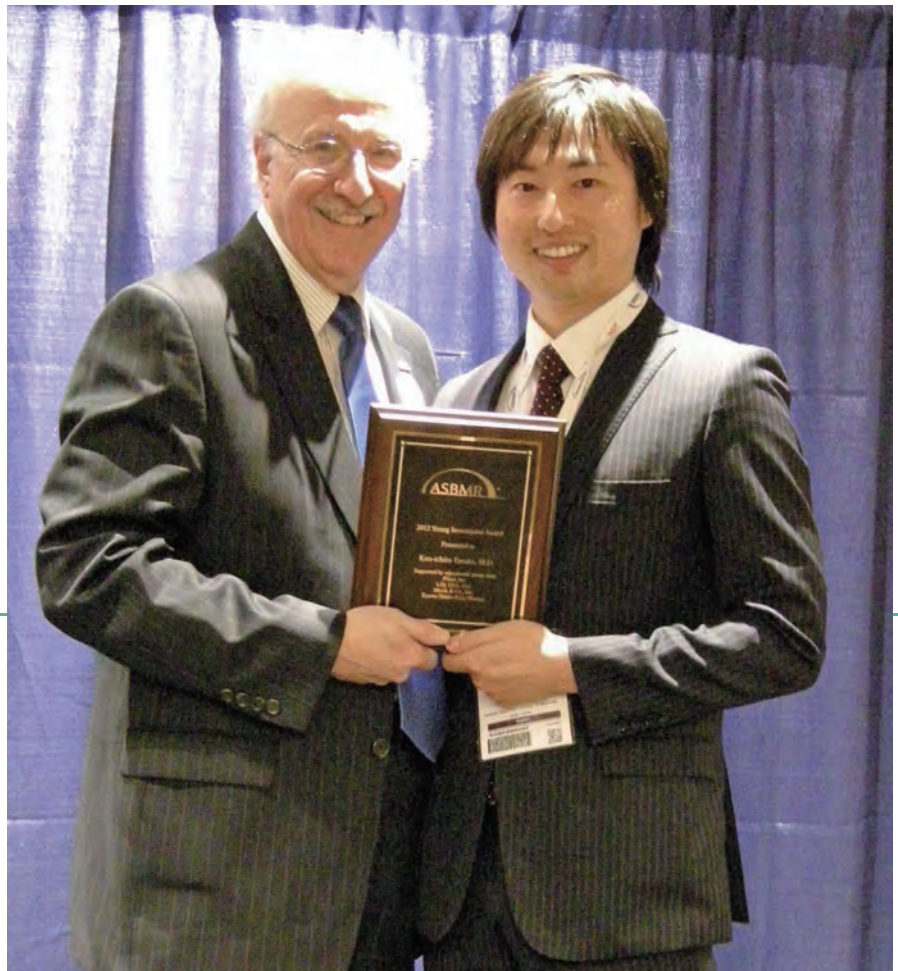
今後はその研究結果をさらに発展させ、運動器機能が低下する高齢者の日常生活動作(ADL)や生活の質(QOL)



島根大学の研究室にて。研究カンファレンスの様子。



クリーンベンチ内での実験の様子。



米国骨代謝学会学術集会にて「若手研究奨励賞」を受賞。今後もこの研究が世界をリードしていくことが期待されます。



ちょっと
気になるキーワード

骨、関節、筋肉などの運動器の働きが衰えると、日常生活で人や道具の助けが必要になったり、寝たきりになる可能性が高くなります。こうした運動器の障害のために、要介護になつたり、要介護になる危険の高い状態がロコモティブシンドロームです。ロコモティブシンドロームは、メタボリックシンドローム、認知症に並ぶ、寝たきりや要介護状態の三大要因の一つと考えられており、高齢化が進む日本ではその対策が急がれています。

【高齢者によく見られる
ロコモティブシンドローム（運動器症候群）とは？】

の維持・改善に貢献することが目標です。
また、本学の教育学部と一緒に研究を進める計画も上がっています。「本学の学生や職員に筋力トレーニングをしてもらい、その前後でオステオグリシンがどう変化するか調べ、そのデータをもとにより研究を深める予定です。また、オステオグリシンが筋自身に及ぼす影響や、オステオグリシンの発現に影響を及ぼす因子も研究したい」と意欲をのぞかせます。



日本内分泌学会学術総会にて、優秀な研究発表に贈られる「若手研究奨励賞」を受賞。

さまざまな可能性を秘めた、内分泌臓器やホルモンの世界。田中先生の今後の研究に、地域はもとより世界中からの期待が寄せられています。



掲載記事以外にも、島大には話題がいっぱい! ぜひ、HPをご覧ください。



認定マーク

本学は1月15日付けで『子育てサポート企業』(国が認定する子育て支援に取り組む企業・団体)として認定され、「認定通知書」並びに「認定マーク」くるみんの交付を受けました。第2期次世代育成支援行動計画(平成22~24年)に掲げた目標(男性の育児休業の促進、ワーク・ライフ・バランスに関する講演会の開催等)を達成したことで、認定要件を満たすことができました。

topic 01

仕事と家庭の両立支援の充実をめざして

島根県内では6例目の『子育てサポート企業』に認定

後も職場環境づくりに努めていきたいと思えます」と語りました。

今回取得した「くるみん」マークはホームページや広報誌、各種パンフレット、名刺への印刷などで活用し、『子育てサポート企業』であることを対外的にアピールしていきます。



topic 03

教育分野での受賞は日本人初!

田中奈緒美研究員が「六盤山友誼賞」を受賞

島根大学・寧夏大学国際共同研究所の田中奈緒美研究員(寧夏駐在)が、中国寧夏回族

自治区に対して様々な分野で貢献の著しい外国人を表彰する「六盤山(六盤山)友誼賞」を



調印式後にはラヒフベコフ学長らによる講演会が開催され、約100名の聴衆がセメイ国立医科大学の概要、セミパラチンスク核実験による被害についての説明を受け、活発な質疑応答が行われました。

topic 02

医師の相互派遣による共同研究などを促進

カザフスタン共和国・セメイ国立医科大学と大学間協定を締結

1月28日、カザフスタン共和国のセメイ国立医科大学からトルベイ ラヒフベコフ学長を迎え、大学間交流協定を締結しました。

セメイ国立医科大学は、カザフスタン共和国のセメイ市(旧セミパラチンスク市)に位置する大学で、多くの医師を養成

していることで有名です。この協定は、同医科大学関係者と長年現地支援に取り組んできた実績と成果が結びついたもの。今後は旧ソ連時代に450回以上も行われた核実験で多くの健康被害を受けたセメイ地域住民への医学的支援を行い、住民の健康維持に貢献すべく医師の相互派遣による共同研究、研修医の受入、検診等が計画されています。

topic 04

「ナノテクノロジー」に関する世界最大の展示会

Sーグリーン・ライフ ナノ材料プロジェクトが 「nano tech 2013」に出展

1月30日～2月1日、東京ビッグサイトにおいて、最先端技術と製品のビジネスマッチングを創出する「nano tech 2013 第12回国際ナノテクノロジー総合展・技術会議」が開催され、3日間で4万6千人を超える来場者がありました。

本学からは重点研究プロジェクト「Sーグリーン・ライフナノ材料プロジェクト」(研究代表者:総合理工学研究科 藤田恭久教授)が出展し、本学が開発した酸化亜鉛ナノ粒子塗布型LEDをはじめ、太陽電池やキャパシタ材料、ナノ材料の医療応用技術、安全性評価技術、及び島根大学ナノテクプロ



ジェクトセンターなど、ユニークなナノテク研究の取り組みを紹介。産学連携や国際交流などの相談も含めて多くの有益な交流ができました。

topic 05

大学と地域社会を結ぶ新事業

山陰5大学連携「ソーシャルラーニング キックオフシンポジウム」を開催

3月7日、松江テルサにおいて、文部科学省大学間連携共同教育推進事業に選定された「大学と地域社会を結ぶ大学間連携ソーシャルラーニング」のキック

オフシンポジウムを開催。この選定事業は、山陰地域の豊かな地域資源を活用しながら、地域と協働して社会の求める人材育成をめざすもので、本年度から5年間かけて展開していきます。当日は地域の問題に取り組む意欲的な学生の成果発表のほ

受賞しました。

今回の表彰は10回目にあたり、日本人では7人目。田中研究員の専門分野である教育での受賞は日本人初となりました。

田中研究員は本研究所の業務の傍ら、寧夏大学外国語学院の日本語講師を務め、学生や教職員に広く日本語、日本文化を伝えてきました。その度々の業績が評価され、この度の受賞へ繋がりました。昨年12月の授賞式において田中研究員は「寧夏、そして故郷・島根のた

か、「大学に社会が期待すること」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

山陰中央新報社の松尾常務取締役などから提言を受け、本学の小林学長をはじめとした連携大学関係者から意見が出され、発表学生も巻き込んだ活発な議論が行われました。これから発展していく事業のスタートにふさわしい、各界関係者の期待が込められた熱気あふれるキックオフシンポジウムでした。

めに、何か少しでも貢献できることができれば「光栄です」とコメント。また1月の一時帰国に合わせ、小林学長を訪問し、受賞の喜びの報告を行いました。



島大生が「幸運の耕運機プロジェクト」に参加



耕運機のボディには、被災地の農家の方への応援メッセージがぎっしりと。

島根から贈った脱穀機が大活躍。なれない農作業にみんな一生懸命取り組みました。

東日本大震災で被害に遭われた農家に農機具を送る「幸運の耕運機プロジェクト」。昨年11月、本学から法文学部2年生の堀井敬行さんを含む3名の学生が活動に参加しました。堀井さんが被災地に足を運ぶのは、今回で

3回目。「徐々に復興しているとは感じるが、まだまだ進んでいないところも多く、更なる復興の必要性を感じました」と話します。今回は使われなくなった脱穀機を譲り受け、宮城県南三陸町の農家の方に送り、一緒に稲の脱穀をしました。「自分たちが送った脱穀機が動いているのを見て、とてもうれしかった。被災者、そして島根の人の色々な思いが詰まった重みのあるお米になりました」と振り返ります。また、他大学からのボランティア学生と交流ができたのも、今後の活動への大きな励みになりました。これからも活動を続けるのはもちろん、「耕運機をさまざまな地域イベントに持っていく、東日本大震災を風化させない取り組みも進めていきたい」と力強く抱負を語っていました。



震災の象徴になっている気仙沼市の第18共徳丸の前で。

平成25年度(前期) 公開講座・公開授業 について

島根大学では、平成25年度も公開講座公開授業を実施しています。詳しくは、島根大学のホームページより「地域の皆さま」をクリックし、「公開講座・公開授業」をご覧ください。

■公開講座

公開講座とは、本学の社会貢献・地域貢献の一環として、教育研究の成果を広く社会に公開し、地域住民の皆さまに学びの機会を提供するものです。皆さまの受講をお待ちしております。

■公開授業

公開授業とは、生涯学習に対する社会的ニーズに応えるとともに、地域と大学との連携をますます深めていくために、本学の学生向けに開設された正規の授業科目の一部を地域住民の皆さまに開放し、学生とともに講義を受講していただくものです。是非、これを機に、学生たちとともにキャンパスライフをご体験ください。

お問合せ先…
島根大学
生涯教育推進センター
電話：0852-3216408
FAX：0852-3216098



荒れた森林を元気にしよう!
私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。

みんなで森を守ろう!

山陰合同銀行

松江キャンパス

〔天文部〕



部室として親しんでいる天文ドーム。

山陰地方は曇天が多いため、晴れ間は貴重な観測日。基本の活動日は火曜と金曜ですが、晴ればいつでも観測開始に。メシエ天体を探したり、流星群を夜通し観測したり、屋外観測や合宿へ出かけたりと楽しみは尽きません。星を観る楽しさを部員以外に伝えたいと、天体観望会を年4回開催。空を見上げての星空解説や部員が撮影した天体写真のスライド上映、星座にまつわる神話紹介など演出にもひと工夫。

「僕たちの知識をより深め、天体観望会を盛り上げていきま

すよ！」と部長の寺田裕紀さん(総合理工学部2年生)。

2012年は金環日食、金星の太陽面通過など大きな天文現象が続き、感動的な年となりました。

2つの大彗星の接近が予想される2013年は、部室としている天文ドームの屋根の改修も予定され、活動に弾みがつきそうです。



①



②



③



固定撮影 カメラのシャッターを開放状態にして撮影。

- ①アンドロメダ座にあるM31アンドロメダ大銀河。
 - ②夏合宿時に佐治天文台(鳥取市)にて撮影。
 - ③晴れば活動拠点の総合理工学部棟2号館屋上に部員がせいぞろい。寒さもとわず天体観測がスタート。
- ※天文写真は天文部部員が撮影

島根大学オリジナル芋焼酎

神在の里 好評発売中

生物資源科学部神西砂丘農場で生産されたサツマイモ「ベニアズマ」を原材料とした「芋焼酎」

●神在(かみあり)の里(720ml) 2本入りセット...3150円(税込)



島根大学生生活協同組合

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 1r.0852-32-6240
http://omise.seikyoku.jp/shimane

印刷テクノロジーで、
世界を変える。

TOPPAN

凸版印刷株式会社 www.toppan.co.jp
松江営業所 〒690-0887 島根県松江市殿町383 山陰中央ビル7F

松江キャンパス

「松江よさこい連「國美輝」」
くにびき



練習会場の松江東高等学校体育館にて。

若いチカラでパワフルに!
観客と仲間と
一体になって踊る喜び。

年々、活躍の場を広げて、今年度のイベント参加は30近く。祭りやイベントを中心に幼稚園や小学校、老人ホームなどさまざまな場所でエネルギーギッシュな演舞を披露しています。メンバーは大学院生を含む本学学生13名に社会人や外国語指導助手も加わり総勢18名。楽しくかつ洗練された動きをめざし、週2回の練習に励んでいます。踊りには生活態度が表れることから「礼節を重んじ、踊る機会を与えてもらえたことへの感謝の気持ちを忘れないように心がけています」と代表の煙石有理さん(教育学部2年生)。



めざすは洗練された踊り。常に笑顔ときびきびとした動きを大切に、厳しい練習を重ねています。

知の「よさこい祭り」では他県チームに合流も。知名度アップを図ろうと全メンバーが名刺を持って積極的にPR。踊る楽しさを伝えるべく、学内での演舞会も開催しています。

野球は一戦一戦が生に一度きりのドラマ。その醍醐味を味わうべく、医学部準硬式野球部では「試合で勝つことだけでなく、楽しみながら野球をする」姿勢を貫いています。練習メニューや練習試合の計画立案の際には、「楽しむ」というキーワードを核に練り上げ、練習や試合の実践では積み重ねによって野球が楽しくなるようにと一回、一回に集中。野球に向き合う時間を大切にしています。こうして週4回の練習で整え上げた戦力と練習試合や定期戦で養った実践力で、めざすは中国四国医系学生体育大会と西日本医科学生総合体育大会。



練習中は真剣ながらも楽しむ気持ちを忘れません。

「楽しみながらベストを尽くしていけば、結果は自ずとついてくるはず」とキャプテンの有福佑さん(医学部3年生)。

何より野球が好きという全部員の想いも強力な助っ人となることでしょう。

出雲キャンパス

医学部「準硬式野球部」



野球好きが集まって、2013年2月現在、部員数は48名に。

練習を積むたびに、
試合を重ねるたびに、
野球を好きになっていく。



島根大学は、島根スサノオマジックを応援しています！

神話第参章、決戦の地をめざして!!



昨年10月に開幕した島根スサノオマジックの神話第参章も3月を終え、レギュラーシーズン全52試合中、残り6試合。3月10日には全チーム中2番目に早いプレイオフ進出(西地区6位以内)が決まり、今後はさらにその上の目標をめざす戦いとなる。今回は「プレイオフ」の仕組みをご説明しよう。



東西のカンファレンスに分かれてのレギュラーシーズン(52試合)を戦い、東西各カンファレンスで勝率上位6位以上のチームがプレイオフに進出できます。

- (1) ファーストラウンド
 - 各カンファレンスの 3位(ホーム) VS 6位(アウェイ)
 - 各カンファレンスの 4位(ホーム) VS 5位(アウェイ)
- (2) セカンドラウンド
 - 各カンファレンスの 1位(ホーム) VS ファーストラウンドの勝者でレギュラーシーズン下位チーム(アウェイ)
 - 各カンファレンスの 2位(ホーム) VS ファーストラウンドの勝者でレギュラーシーズン上位チーム(アウェイ)
- (3) セカンドラウンドの勝者、各カンファレンス2チームずつが、決勝の地、東京「有明」の切符をゲット!
【プレイオフ ファイナルズ】(@有明コロシアム)
 - 2013年5月18日(土) 各カンファレンスの勝者2チームで戦い、王者を決定
 - 2013年5月19日(日) 各カンファレンスファイナルでの王者同士で日本一のチームを決定。

プレイオフは5月1週~5月3週の毎週末に行われます。スサノオマジックはプレイオフ進出を決めました。西地区4位以内でホームでのプレイオフ開催を実現できるよう、みんなで応援しよう!!

島根スサノオマジックの最新情報・試合・チケットなど

島根スサノオマジック

検索

お問い合わせ先 島根スサノオマジック事務局 0852-60-1866(平日10時~18時)

★島大生のホームゲーム運営サポートボランティアも募集中。詳しくは学生支援センターまで。

島根大学支援基金寄附者一覧

(平成24年12月~平成25年2月に寄附いただいた皆様) (五十音順・敬称略)

| | | | |
|---------|---|---|---|
| 冠寄附 | 学長・理事 寄附金名称:学長理事出雲文化基金 寄附目的:古代出雲文化フォーラム支援 | 小西医療器株式会社 寄附金名称:小西医療器エチオピア留学生等支援基金 寄附目的:エチオピア留学生等の支援 | 土谷 治久 寄附金名称:佐田基金 寄附目的:エチオピア留学生等の支援 |
| 個人からの寄附 | 池辺 政己 上田 寛 笠見 孝裕 勝部 宏悦 近藤 揚輔 竹永 三男 多々納 道子 長富 寛和 林 直輝 原 恭子 平尾 幸一 平岡 香代 平川 正人 松田 千賀久 山本 昭男 和田 純夫 | | |

島根大学では学生に対する学修支援を一層充実させるため、「島根大学支援基金」を募集しています。寄附書はホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。

TEL:0852-32-6603(総務課) ホームページ http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund_recruit/

※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載していません。

投稿のお願い

投稿先

『広報しまだい』は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学 広報室
FAX: 0852-32-6019
E-mail: gad-koho@office.shimane-u.ac.jp
ホームページ: <http://www.shimane-u.ac.jp>

PRESENT



ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、島大農場で収穫・加工されたオリジナル「柚子ジャム」をプレゼントします。

※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。
※応募締切/平成25年6月14日必着

編集後記

厳しい冬が終わり、桜の便りがあちこちで聞かれる季節となりました。島根大学では、3月に卒業生が希望を胸に社会へ旅立ち、4月には多くの新入生を迎え、また新しい1年がスタートします。

さて、今回の「広報しまだい」は、学長スペシャル対談、東京・有楽町で開催し、780席を大幅に上回る申し込みがあり、大盛況のうちに幕を閉じた「古代出雲文化フォーラム」、そして県内初導入となる手術支援ロ

ボット「ダ・ヴィンチ」をはじめとする附属病院再開発事業の紹介など、盛りだくさんの内容をお伝えしました。

平成24年度最終号の編集を終え、平成25年度も引き続き地域の皆さまに興味を持っていただける情報をたくさんお伝えしたいと思っておりますので、今後ともご愛読のほどよろしくお願いたします。

これから出逢う、 未来の自分。

島根大学 は

「地域に根ざし、
地域社会から世界に発信する
個性輝く大学」を
目指すとともに、
学生・教職員の協同のもと、
学生が育ち、
学生とともに育つ大学づくりを
推進しています。



～学生ポータルサイト～
新規オープン!

ウェルカム島大

島大生が作る、大学生活情報サイト
あなたの知りたい情報がきっと見つかります。

<http://www.welcome.shimane-u.ac.jp/>



人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学

松江市西川津町1060
TEL.0852-32-6100(代)

